

2021 年度 森泰吉郎記念研究信仰基金 研究成果報告書
採択番号 52「意識高い」を巡るダブルバインドに悩む児童

研究テーマ（変更後）

放課後児童クラブにおける児童主体のコミュニティ形成を促す放課後児童支援員のあり方
ー SORAI 放課後児童クラブを事例として

政策メディア研究科 修士課程 1 年 (PS)

古賀 要花

はじめに

この度は、2021 年度森泰吉郎記念研究振興基金に採択いただき、ありがとうございます。実施予定だった研究は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により研究可能な対象が限られてしまったこと、そして研究可能な施設の状況などを鑑み、研究テーマを変更することになりました。そのため、下記では「放課後児童クラブにおける児童主体のコミュニティ形成を促す放課後児童支援員のあり方ーSORAI 放課後児童クラブを事例として」と題し、実施している研究の進捗についてご報告させていただきます。

1. 研究概要

OECD「Education 2030」では、「自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会改革をしていく力」を意味する Agency の重要性が言及された。我が国では、2020 年度より順次実施される新学習指導要領の改善の方向性として「『主体的・対話的で深い学び』の実現」が示され、その中で育成を目指す資質・能力の 1 つとして「学びに向かう力・人間性等」が位置づけられた。しかしながら、住野（2021）は学校の状況も鑑み、学校教育のみでは子どもたちが小学校時代に獲得すべき次の資質・能力を十分育成できないと指摘している。その上で、学童保育の役割を、文部科学省が学校に求めた「これまで以上に福祉的な役割や子どもたちの居場所としての機能」¹を担うことと、学校と連携して子どもたちが小学生時代に身につける必要がある資質・能力を育成することではないかと指摘する。以上からもわかるようにこれからの学童保育は「安心安全で預かる居場所」としての役割だけでなく、放課後の子どもの時間をより豊かにする教育的機能も担うことが求められているのである。また住野（2012）は、学童保育における教育的機能の特徴を踏まえ、学童保育においては、共同的な遊びや生活の中で、ケアの機能と結びついて社会性や自治的能力を含めた人間的で全体的な発達を支援する教育的機能を発揮することが可能であると指摘する。本研究では、こうした学童保育の教育的機能に念頭におき、いかにして子どもたちの自治的能力を育むか、

¹ 中央教育審議会(2021)前掲答申,10 頁

そのために放課後児童支援員はどのように振る舞えばいいのかを検討する。

2. 研究の全体像

本研究では、4つのステップに分けて研究を行う（図1参照）。まずステップ1では、SORAI 放課後児童クラブがどのように設立され、現在はどのような経歴を持った支援員がおり、どのように運営されているのかを知るために過去・現状確認型リサーチを行う。また、子ども主体コミュニティ形成や放課後児童クラブにおける職員の関わり方に関する先行研究調査も行う。次にステップ2では、放課後児童クラブにおける子ども主体コミュニティの概念モデルの構築を行うために放課後児童支援員とともに理念・重視する概念の言語化・整理を行い、それに応じたルーブリックの作成を行う。その上で、ステップ3では、子ども主体コミュニティを構築するための仮説を導出し、ステップ4ではアクションリサーチ法を用いて検証を行う。

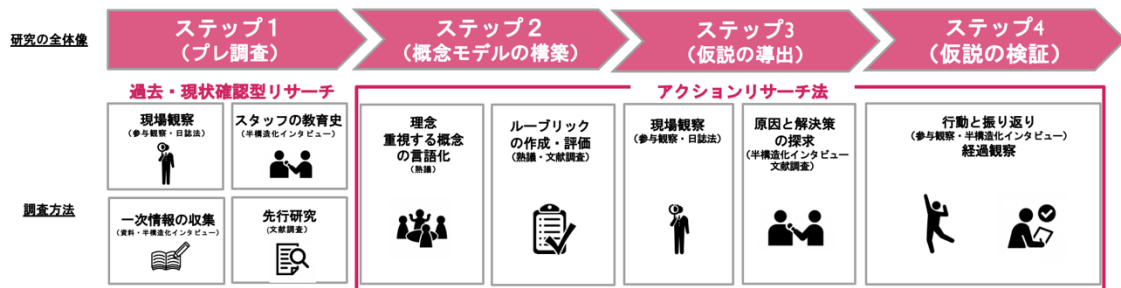


図1：研究の全体像

本研究の研究対象は、YAMAGATA DESIGN 株式会社が運営する SORAI 放課後児童クラブである。筆者がフィールドの要件としたのは、第一に放課後の子どもの居場所としての役割だけでなく、教育的機能を重んじている放課後児童クラブであること、第二に、子どもの自治活動を推奨し、ユニークな活動をしていることである。筆者は、2021年4月に一度 KIDS DOME SORAI を見学し、5月にヤマガタデザインの代表取締役の山中氏にメールでフィールドワークの依頼をした。その後、山中氏、KIDS DOME SORAI の館長である渡邊敦氏、そして主査（鈴木寛氏）を含む4者でオンラインミーティングを開催した。会議の結果、まずは2021年7月22日から8月12日まで KIDS DOME SORAI のインターン生として実務にあたることで、研究仮説をブラッシュアップすることとなった。そして KIDS DOME SORAI、SORAI 放課後児童クラブの現状の課題やフェーズを踏まえた上で、子ども主体のコミュニティ形成過程を調査するべく介入研究を行う運びとなった。

本研究を実施するにあたり、学校法人 きのくに子どもの村学園 小学校、学校法人 茂来学園 大日向小学校等を子どもの主体コミュニティの先行事例として参考にさせていただいている。下記の表1は、それぞれの研究対象の特徴をまとめたものである。

表1：研究対象となる事例と参考事例

メ イ ン 事 例	YAMAGATA DESIGN 株式会社 SORAI 放課後児童クラブ	山形県鶴岡市にある児童教育施設「KIDS DOME SORAI」が運営する放課後児童クラブである。本施設の特徴は、文部科学省の管轄である児童教育と厚生労働省の管轄の放課後児童クラブが併設されていることが挙げられる。また本施設では、夢中体験を子どもの頃から何度も繰り返すことが自分軸、自己肯定感、最後までやり遂げる力等を育むとし、教育理念「夢中体験を通じて子どものジブンを育む」を掲げている。
参 考 事 例	学校法人 きのくに子どもの村学園 小学校	和歌山県橋本市にある本校は、ジョン・デューイと A.S. ニールの考えを取り入れた学校で、元大阪市立大学の堀真一郎氏が創設した。子どもが感情、知性、人間関係のいずれの面でも自由な子どもに育てほしいと①自己決定の原則②個性化の原則③体験学習の原則を基本方針としている。これらは、①教師中心主義②画一主義③書物中心主義という従来の学校の基本方針の転換とされている。
参 考 事 例	学校法人 茂来学園 大日向小学校 学童保育ひなたぼっこ	長野県南佐久郡にある本校は、日本初のイエナプランスクールであり、「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界」をつくろうとする意志と行動力を持つために①自立する②共に生きる③世界に目を向けることを重んじている。毎日児童とグループリーダー（教師）が円になって対話する「サークル対話」の時間が設けられている。

3. 2021 年度の研究実施内容

2021 年度は、4 月～6 月でフィールドワーク、先行研究調査などを実施し、研究テーマの決定を行い、7 月以降は、研究対象である SORAI 放課後児童クラブに参入し、参与観察、インタビュー等を本格的に開始した。SORAI 放課後児童クラブで主に取り組んだことは、以下の 4 点である。

1) SORAI の立ち上げから現在までの変遷を追う（一次情報の収集）

研究対象である SORAI 放課後児童クラブが併設されている KIDS DOME SORAI がどのようにして現在の姿に至ったのか、放課後児童クラブが始まった経緯、理想や課題について知ることを目的に、下記 5 つの調査を実施した。

- (1) 創立者への半構造化インタビュー：ヤマガタデザイン株式会社の代表取締役であり、児童教育施設 KIDS DOME SORAI の創設者である山中大介氏に、立ち上げ当時の

- 意思決定プロセス、鶴岡市政との関係、現在の課題、展望等についての半構造化インタビューを行った（2021年8月16日、2021年8月27日、2021年9月24日に実施）。
- (2) プロジェクトリーダーへの半構造化インタビュー：児童教育施設 KIDS DOME SORAI のプロジェクトリーダーを勤めた土屋陽子氏に、立ち上げ当時の意思決定プロセス、参考にした施設、料金設計、求人方針、コンセプト決定などの詳細に関する半構造化インタビューを行った（2021年8月19日、2021年8月26日に実施）。
- (3) ソライ学童リーダーへの半構造化インタビュー：児童教育施設 KIDS DOME SORAI に併設されている「SORAI 放課後児童クラブ」で放課後児童支援員をしている正社員 2 名に、SORAI 放課後児童クラブの立ち上げ、理想像、課題などについて半構造化インタビューを行った（2021年8月31日、2021年9月25日に実施）。
- (4) ヤマガタデザイン株式会社 街づくり推進室 室長への半構造化インタビュー：ヤマガタデザイン株式会社 街づくり推進室 室長で、会社全体の広報、ソライでんき、SORAI サポーターの窓口を担当している長岡太郎氏にソライでんき、SORAI サポーターをはじめとする KIDS DOME SORAI の出資者について半構造化インタビューを行った（2021年8月31日に実施）。
- (5) 文献調査：山形新聞、コミュニティ新聞、広報つるおかななどのメディア掲載記事 22 件、プレスリリース記事 19 件、SORAI 放課後児童クラブ案内、ヤマガタデザイン作成の内部資料 50 件以上、その他求人記事等資料を収集し、クロノロジーにまとめる。

以上の調査の中で特筆すべき点は、放課後児童支援員の発言により明らかになった放課後児童クラブの課題である（表 2 参照）。

表 2：放課後児童支援員をしている正社員 2 名の発言

放課後児童支援員①	どの子どもも（教育理念である）夢中体験ができることを最終的に目指すには、その土台としての自己肯定感など様々な力が必要。今現在、 <u>そこまでに辿り着けていないから、そこに行くまでの過程とか目標をもう少し言語化、具体化していきたいな</u> っていうのがある。
放課後児童支援員②	<u>全体的に大人がやりすぎちゃっている部分はまだまだ多いな</u> っていうのが今の課題。目指す子どもたちの姿は、将来的に自立っていうのがテーマなんだろうなって思うと、そのために <u>もうちょっと子どもに任せることが必要</u> かなって。こっちの関わり方も。
放課後児童支援員②	（もともと特別支援学級の職員をしていたため）職業柄なんでしょうね。支援みたいに入っちゃうから。でも支援といっても、見守るも一つの支援だし、抜く、抜けるっていうのも必要だしって。あとは、子ども主体、子どもに任せるみたいなのはもっと増やしていきたいとことですよ。今はまだ <u>子どもの自治組織ではない。本当は子どもたちももうそういうことできる力</u> っていうか、年齢・発達になってるところもあるけど、割と大人が前に立

	って、誘導することが多いから、そこの仕組みを作っていかなきゃなっていないのが今年度の目標ですよ。
--	--

以上の発言より、SORAI 放課後児童クラブでは、より子どもが主体となるコミュニティを形成するための支援員のあり方や仕組みを模索する必要があることが示唆された。

2) SORAI 放課後児童クラブの現場観察

前述の通り、2021年7月22日から8月12日までKIDS DOME SORAIのインターン生として実務にあたり、日誌法を用いて日々の出来事を記録した。9月以降は、SORAI 研究員として、SORAIの教育的価値の言語化、現場の共有知財づくりに励みながら、現場理解を深めるため毎週3回程度の参与観察を実施した。実際にアクションリサーチ法を用いて、子ども主体コミュニティ形成を促す放課後児童支援員のあり方を検討するのは、2022年4月からを予定しているが、本年度も①子ども主催のキッズマルシェの実施②子ども主催のワークショップの開催③プレゼン大会の実施④子ども同士の誕生日会の企画・実施⑤子どもが学童規則の一部を決める⑥子どもが連絡事項を共有する時間のファシリテーションを務めるなど、新しいアクションを実施した。これらは、子ども主体コミュニティを作る上で、どのような方法が望ましいかを考えるための材料となっている。

3) SORAIの教育的価値の言語化

子ども主体のコミュニティを形成するための概念モデルを構築するにあたり、SORAI 放課後児童クラブの教育理念、重視する概念について言語化する必要性があった。そこで、現場の全職員と約3ヶ月に亘り議論をし、教育的価値の言語化を試みた。具体的なスケジュールは、表3の通りである。

表3：SORAI職員との熟議テーマ

日付	テーマ
9月1日	SORAIの課題とは何か？の熟議
9月8日	SORAIの課題を解決する方法とは？の熟議
9月15日	夢中体験/天性重視個性伸長とはどのような状況か？嬉しいこと、実現したいこと、悲しいことについての熟議
9月22日	子どもとの関わりや子どもを育てる上で一番重要視したい価値観は何か？
9月29日	どのような背景、目的でどのような子どもに育ててほしいと考えるか？
10月20日	理念についてのアイデア出し
11月3日	理念のアップデート
11月17日	子どもとの関わり方の柱決め

上記の日程で議論行って出てきた意見を KH coder を用いてテキストマイニング分析を行い、重視する概念の言語化を行った。成果としては、SORAIの教育理念のアップデート

と理念を実現するために重視する①職員の関わり方②環境設計の言語化が挙げられる。

4) SORAI 職員へのライフストーリーインタビュー調査

SORAI 職員が受けていた教育と自身が行なってきた教育がどのようなものだったかについては、現在の子どもとの関わりに大きく影響していると考えられる。そこで、①SORAI 職員が受けていた教育②教育者としてどのような経験をしてきたかについてのライフ・ストーリーインタビューを実施した。職員には事前に、筆者が作成した資料に記入してもらい、半構造化インタビューにて深堀をした。実施期間は、2021年11月~2021年12月16日までである。

4. 今後の展望

今後は、上述の調査から得られた示唆をもとにループリックの作成とそれを元にした現状分析、子ども主体のコミュニティを構築するための仮説の導出を行う。その際には、先述した先行事例を視察する予定である。仮説検証は、新年度が始まる2022年4月からを予定している。

5. 参考文献

- A.S.ニール,(2009),『新版 ニール選集(1)問題の子ども』,堀 真一郎 (翻訳),黎明書房.
白井俊(2020)『OECD Education 2030 プロジェクトが描く未来』,ミネルバ書房.
住野好久(2012)「学童保育における教育的機能の特徴」日本学童保育学会編『現代日本の学童保育』旬報社,149~150頁.
住野好久(2021)「学童保育と学校教育の現在と未来」日本学童保育学会編『学童保育研究の課題と展望』,明誠書林. 47~31頁.
堀真一郎(2013)『きのくに子どもの村の教育』,黎明書房.
矢守克也(2010)『アクションリサーチ—実践する人間科学』,新曜社.

6. 謝辞

この度は、2021年度森泰吉郎記念研究振興基金に採択いただき、ありがとうございました。研究活動を進めるにあたり、必要となる機材や旅費の補助により、目標としていた研究と成果を得ることができました。ご支援いただけたことは非常に嬉しく、身の引き締まる思いでございます。またこの度2021年度に取り組んだ事柄から、今後の課題も多数発見に至りました。ご支援いただいた責任を果たすべく、さらに今後より一層の研究に励み、成果を出せますよう一層精進して参りたいと思います。ご指導いただいております主査の鈴木寛先生、そして副査の玉村先生、清水先生、ネットCOMの先生皆様、ありがとうございました。この度ご支援いただきました森泰吉郎記念研究信仰基金に携わる全ての皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。